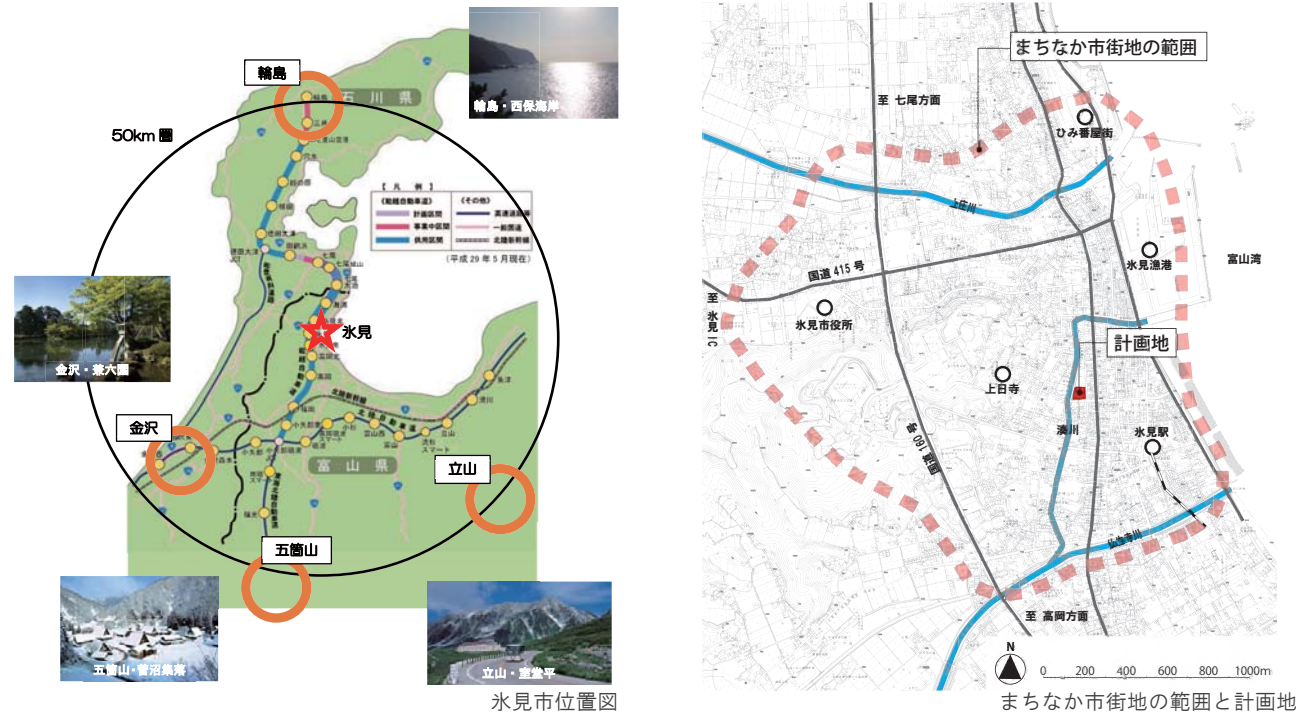


1. 計画地

氷見市は、富山県の北西部、能登半島の基部に位置し、能越自動車道や国道160号、国道415号、JR氷見線などにより、広域的に結ばれています。

計画地は、主要道路に面しておらず、前面道路幅員もやや狭いため、自動車でのアクセス性が高くありませんが、氷見駅から500m圏内に位置し、駅利用者が最初に訪れやすい場所となります。

教育文化センターや湊川沿いの遊歩道と上日寺に至る市道に接しているため、教育・文化の利便性が高く、一街区をまたいで商店街の通りがあります。

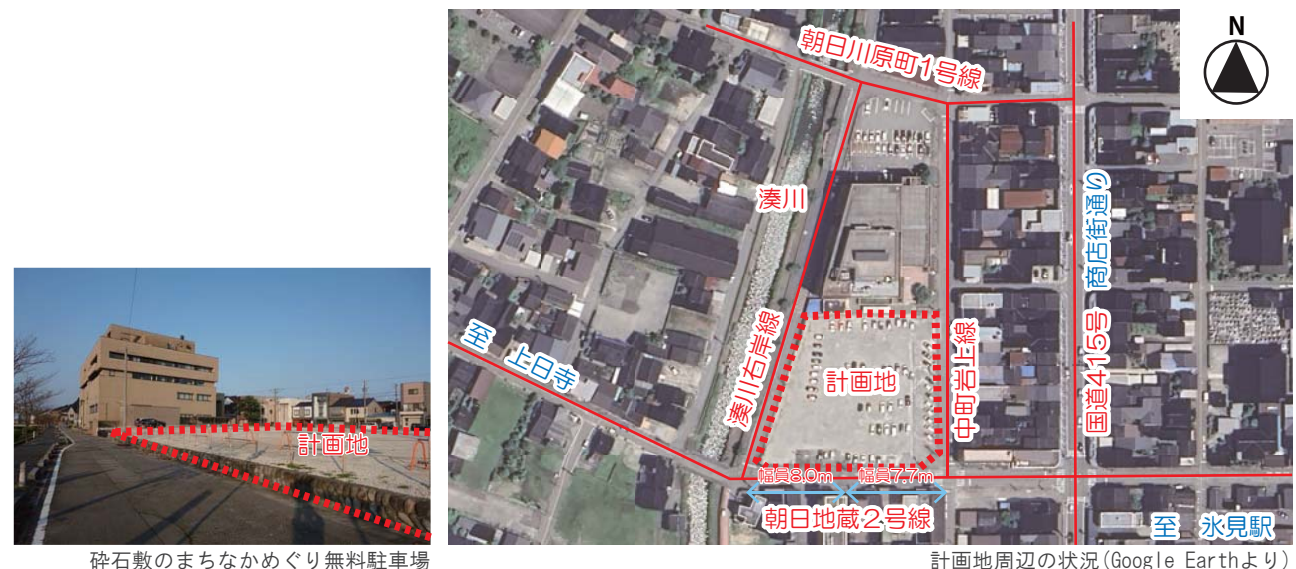


氷見市位置図

まちなか市街地の範囲と計画地

計画地は、旧市民会館の解体後は砕石敷となっており、現在はまちなかめぐり無料駐車場として利用されています。

市民会館跡地南側の市道(朝日地蔵2号線)は都市計画道路朝日公園線W=12mとなっており、現道から約4mセットバックしたラインまでが都市計画道路となります。



砕石敷のまちなかめぐり無料駐車場

計画地周辺の状況(Google Earthより)

2. これまでの経緯

(仮称) ひみ発見館は、下記の業務において基本的な方針・考え方をまとめてきました。

1. 氷見まちなかランドデザイン (平成30年 3月)
2. 氷見市民会館跡地利用等検討計画(令和 3年 3月)
3. 市民会館跡地等利活用基本計画 (令和 4年 1月)
4. (仮称)ひみ発見館基本設計 (令和 5年11月)

方針

氷見まちなかランドデザインにより、氷見の歴史・文化の再発見などを通して、交流と憩いを創出する『交流・憩いのゾーン』に位置し、「図書館、博物館と一体となった“水とみどりの憩いの空間”」が基本的な方針となっています。

考え方

1. 子ども・若者を含む市民が、自然と集い、参加し、活動や学びが生まれ、その魅力に惹きつけられて、観光客が訪れる場づくりを目指す。
2. 氷見の伝統や歴史を学び、再発見し愛着を育む空間づくりを目指す。
3. 湊川のウォーターフロントの魅力を活かすとともに、ニーズの変化に備えたフレキシブルなレイアウトづくりを目指す。

-施設構成-

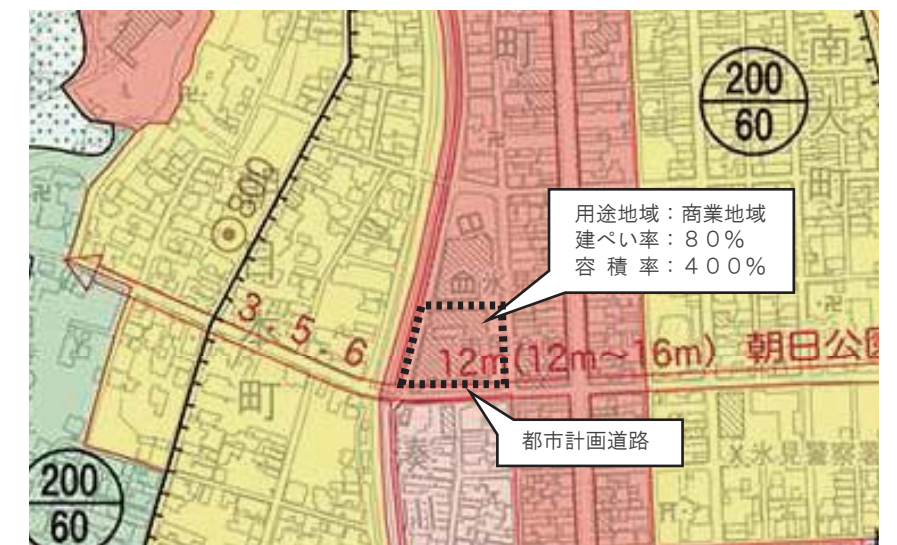
- ・ひみの祭り体験、こども図書ラウンジ、偉人コーナー、カフェ、ホール

3. 建築概要

建物用途：集会場
 建築場所：氷見市本町4-10
 敷地面積：約4,220㎡
 用途地域：商業地域
 防火地域：準防火地域
 日影規制：なし
 建ぺい率：80%
 容積率：400%
 規模：平屋建て
 構造：木造
 (CLT及び在来工法)

延べ面積：約573㎡

道路：東側 6.5m(車道)8.2m(歩道含) 中町岩上線
 南側 7.7m(東側)8.0m(西側) 朝日地蔵2号線
 西側 5.5m(平均幅員) 湊川右岸線



都市計画図(令和4年作成)

4.機能の概要

① 氷見の「歴史・文化」等の発信拠点

(偉人コーナー、ひみのまつり体験：曳山・太鼓台展示)

「(仮称)ひみ発見館」の周辺は、歴史文化をめぐる上日寺、朝日山公園など歩いて廻れる立地にあります。隣接する博物館やふるさと学習もできる「(仮称)ひみ発見館」から歴史文化を学ぶ発信の拠点です。

氷見の「歴史・文化」等の発信拠点としての必要性

氷見はいろんな景観が楽しめますが、観光の情報がわかりにくいといわれています。その為、観光案内の拠点や情報発信する場が必要です。また、氷見には美味しい食材が豊富で魅力的な食文化があるので、その魅力をブランディングへとつなげる拠点とする必要があります。さらに、氷見は祭りが多く、氷見の各祭りを発信、体験する場がありません。そのため、祭りの体験館としての機能が必要です。

② 氷見まちなかの憩い空間とまち歩き拠点

(ホール、カフェ)

JR氷見駅から徒歩圏内であり、観光客がまんがロードのまち歩き途中、休憩として立ち寄り、いろんな情報を得ることができます。また市民の方たちの日常の憩いの場として、佇むことができる場所です。

氷見まちなかの憩い空間とまち歩き拠点としての必要性

中心市街地においてコミュニティの核となる拠点として、市民交流から観光交流に至るまで様々な交流の施設が必要です。この施設が交流の場を提供するだけでなく、氷見のまち歩きの中心として情報発信の役割も担います。

③ こどもたちは本に親しみ、親同士も交流を図れる本を通じた子育て支援の拠点

(こども図書ラウンジ)

絵本を親子で見る、リラックスしながら本を読む等、ゆっくり過ごせる居心地よい場所です。本を通して親同士の交流やこどもたち同士の交流も促せる気持ちの良い空間です。

こどもたちが本に親しむ場、親同士の交流の場としての必要性

現在の図書館内にある児童コーナーは一般の図書コーナーと空間が繋がっています。そこで、こどもたちが、より気軽に本に親しめる空間として「こども図書ラウンジ」を新たに設けます。ここでは自由に絵本を見たり、親子で絵本の読み聞かせ、また親同士の交流も深まります。

④ 水辺の憩い広場

(湊川のウォーターフロントの魅力を感じる憩いの広場)

湊川に沿う、立地性を活かした親水空間や、潤いある外部空間と施設が連続する空間とし、市民や訪れた人が心地よく快適に過ごすことができます。

水辺の憩い広場としての必要性

ウォーターフロントと一体的な公園として、憩いと潤いの空間を整備します。湊川倉庫とも連携するカフェを設け、様々な催事にも活用できる工夫を施すことで、街並みに賑わいを創出できます。



正面イメージ



湊川沿いのイメージ

1. 配置の基本的な考え方

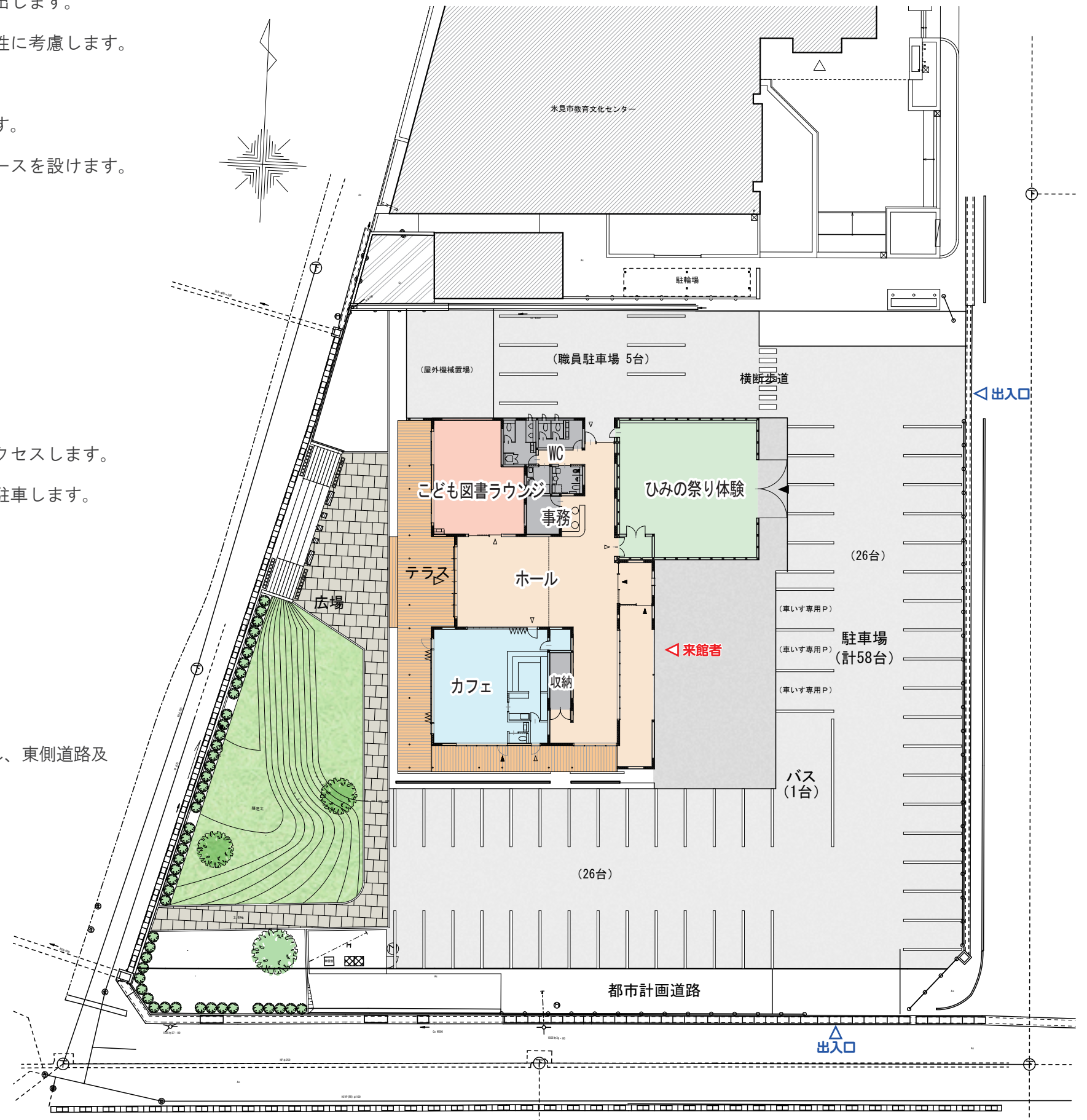
- ① 湊川に面してカフェやこども図書ラウンジ・ホールを設置し賑わいを創出します。
- ② 東側道路及び南側道路市道に面して駐車場を設け、敷地内へのアクセス性に考慮します。
- ③ 3方(東面、南面、西面)に施設の顔づくりを行います。
- ④ 高さが必要な、ひみの祭り体験棟は氷見市教育文化センター側に設けます。
- ⑤ 施設の屋外機置場は、ひみ発見館と氷見市教育文化センターの間にスペースを設けます。
- ⑥ 南側道路の都市計画道路を考慮した駐車場計画とします。
- ⑦ 延焼ラインに掛からないよう敷地境界から離れて建物を配置します。

2. 動線計画

- ① 一般車は東側道路及び南側道路の出入口よりアクセスします。
- ② バスは、南側道路の出入口よりアクセスします。
- ③ 歩行者は、東側道路、南側道路出入口に加え、西側の広場の階段よりアクセスします。
- ④ 職員駐車場は東側道路よりアクセスし、ひみ発見館北側の職員駐車場に駐車します。
- ⑤ ひみの祭り体験の曳山出入口は東側に設けます。
- ⑥ 車いす専用駐車場からのアクセスを考慮し、施設出入口近くに設けます。
- ⑦ 氷見市教育文化センターとの往來を考慮し、横断歩道を設けます。

3. 駐車場・駐輪場

- ① 一般車駐車場49台程度、車いす専用駐車場3台、バス駐車場1台を確保し、東側道路及び南側道路に面してL字型で配置。職員駐車場5台は本館北側に配置します。
- ② 駐輪場は隣接する氷見市教育文化センターの駐輪場を利用します。



1. 平面の基本的な考え方

- ①「ひみの祭り体験・偉人コーナー」「こども図書ラウンジ」「カフェ」「ホール」の4つのボリュームで構成します。
- ②「ひみの祭り体験棟」は東側に配置し、曳山の出し入れが可能な扉を設けます。
- ③「こども図書ラウンジ」「カフェ」は湊川に面して顔をつくり、テラスを設け湊川からの来館者が入りやすい雰囲気をつくれます。
- ④「ホール」は「こども図書ラウンジ」と「カフェ」の間に設け、それぞれと一体的利用できるよう配置します。

■ひみの祭り体験・偉人コーナー

- ①曳山、太鼓台、壁面スクリーンによる映像により迫力ある祇園まつりを体験します。
- ②獅子頭、天狗の衣装などを展示し、氷見市内で継承されている獅子舞を学べます。
- ③氷見市出身の歴史的な偉人や現在活躍されている方々をモニターやパネル等を用いて紹介します。

■こども図書ラウンジ

- ①本を通じた子育て支援の拠点とし、子どもへの読み聞かせや親同士の交流を促進します。
- ②くつろぎコーナーやベンチコーナー、ラウンジなど、様々な過ごし方が可能です。
- ③こども図書ラウンジ近くに授乳室、誰でもトイレを配置します。

■カフェ

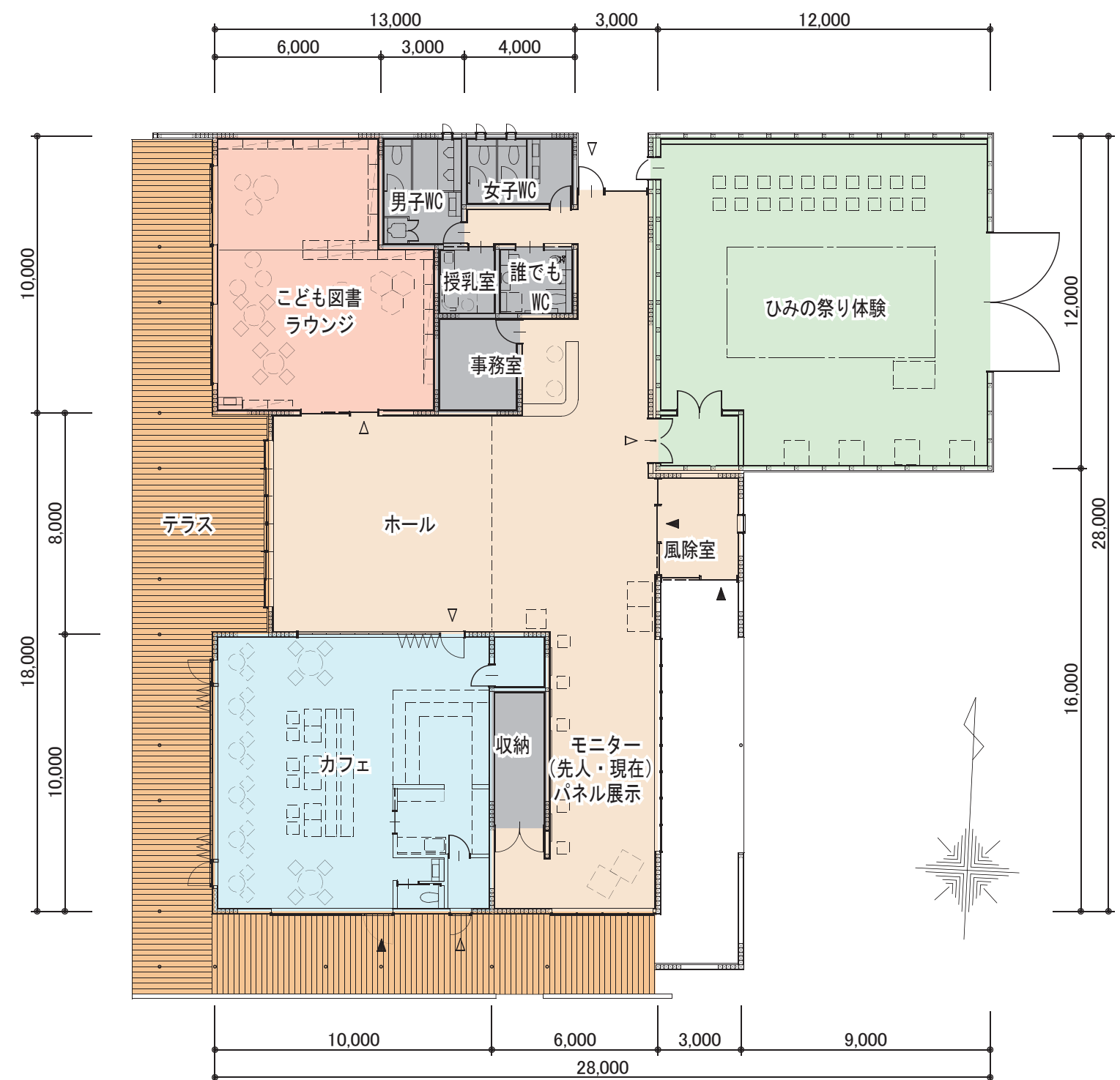
- ①湊川に面して顔をつくり、テラスと一体的に利用。憩い空間とまち歩き拠点となります。
- ②館内のWCとは別にカフェ専用のトイレを設け、カフェ単独での運営も可能です。
- ③ガラス間仕切りをオープンにし、ホールと一体的に利用が可能です。

■ホール

- ①こども図書ラウンジやカフェと一体的に利用が可能です。
- ②テラス側の戸をオープンにし、湊川に通り抜ける事が可能です。
- ③氷見のまちなかのインフォメーションを設け、まちなかへの発着点となります。

2. 室面積表

氷見の祭り体験	: 147.00㎡	男子WC	: 12.00㎡
こども図書ラウンジ	: 72.00㎡	女子WC	: 10.20㎡
カフェ	: 104.00㎡	誰でもWC	: 7.00㎡
ホール	: 192.30㎡	授乳室	: 5.50㎡
事務	: 10.50㎡	収納	: 10.00㎡

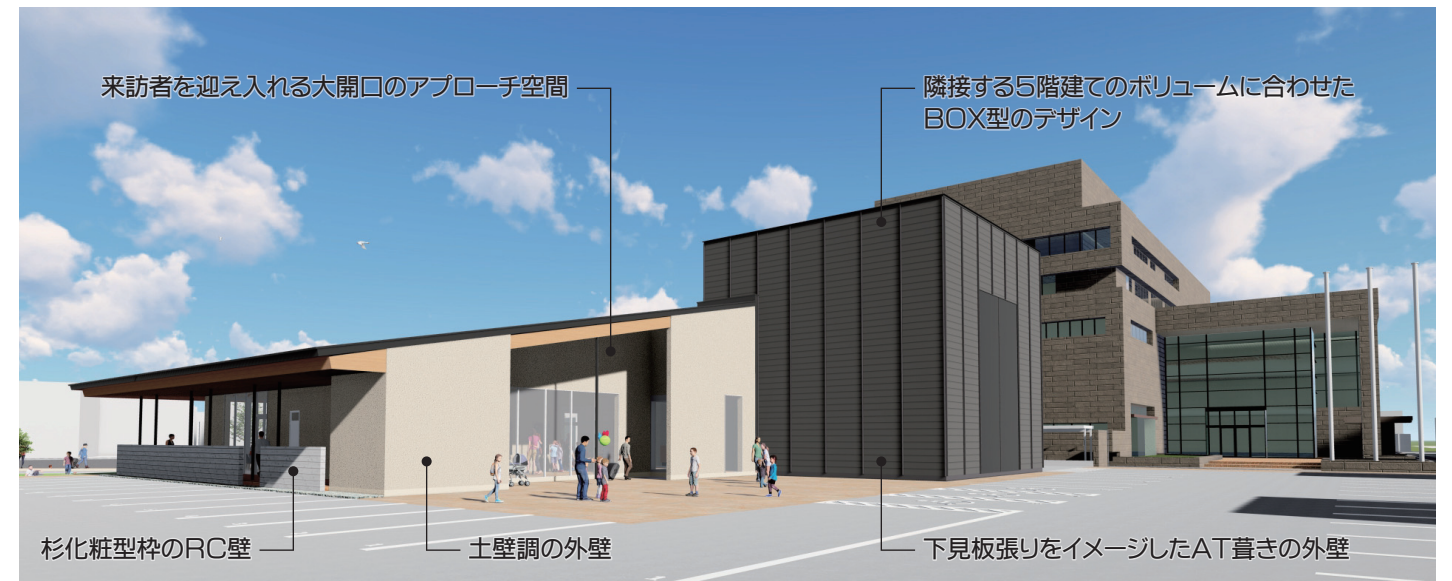


1. 立面の考え方

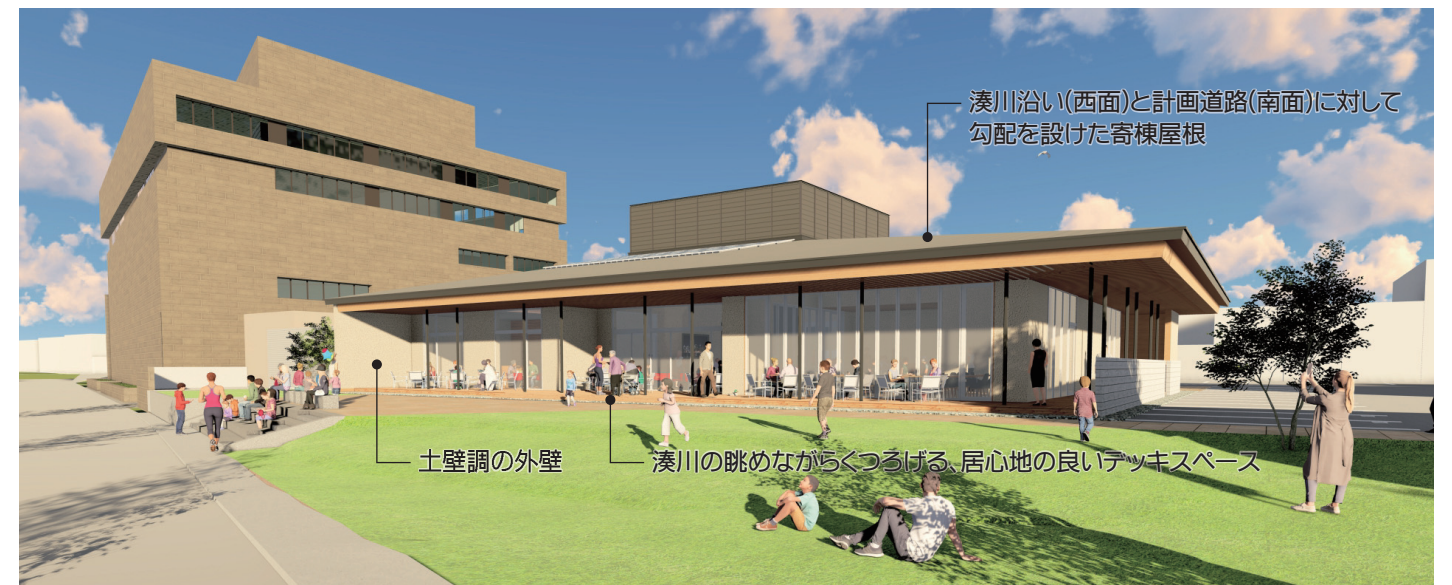
- 氷見の歴史文化を学ぶ発信の拠点としてのかおづくりを行います
- RC造5階建ての教育文化センターのボリュームに負けないファサードづくりを行います
- 氷見のまちなみ景観にあったデザイン・仕上げを採用します
- 湊川の魅力を感じ、心地よく快適に過ごすことができる空間づくりを行います

2. デザイン・仕上げの考え方

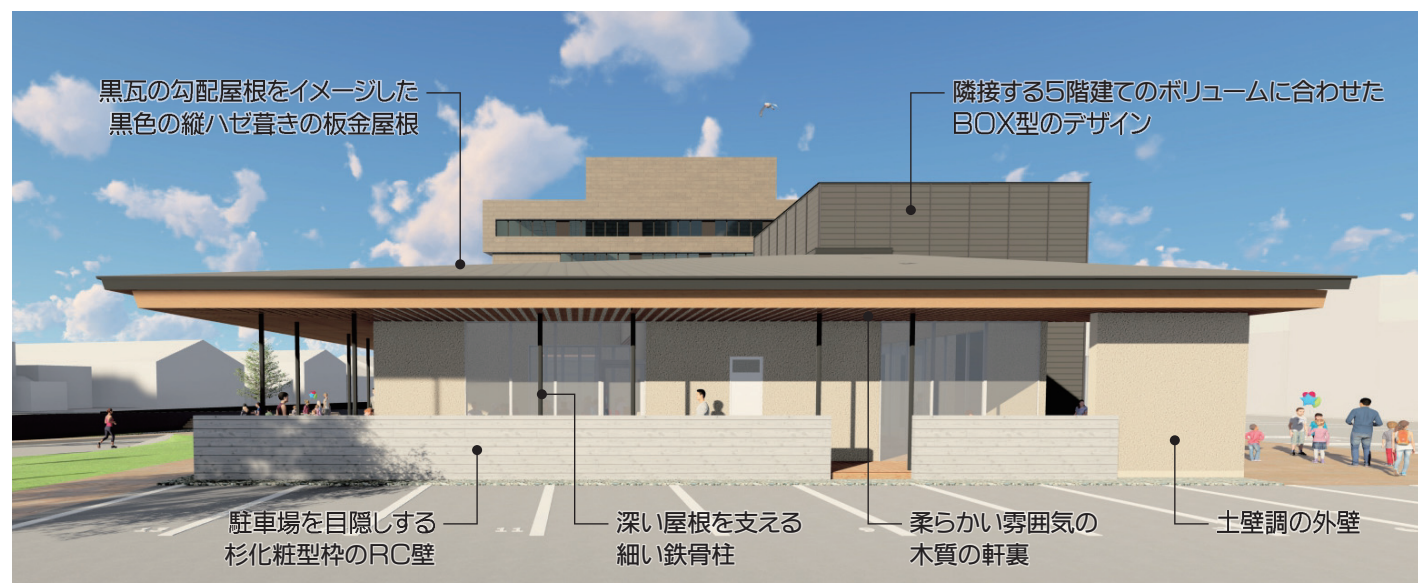
- 氷見の歴史文化を学ぶ発信の拠点としてのかおづくり
 - ・湊川沿い(西面)、計画道路(南面)、前面道路(東面)に大開口を設け、賑わいを発信
 - 湊川沿い(西面)、計画道路(南面)：軒下空間を設け、賑わいの場を創出
 - 前面道路(東面)の施設入口：来訪者を迎え入れる大開口のアプローチ空間
- 隣接するRC造5階建ての教育文化センターを意識したデザイン
 - ・低層部：教育文化センターのボリュームに負けない寄棟の大屋根で覆ったダイナミックなファサード
 - ・高層部：教育文化センターの陸屋根の四角いファサードに合わせたBOX形状
- 氷見の家並みの景観に配慮したデザイン・仕上げ
 - ・低層部：黒瓦の勾配屋根をイメージした黒色の縦ハゼ葺きの板金屋根
湊川沿い(西面)と計画道路(南面)に対して勾配を設けた寄棟屋根
温もりを感じる柔らかな雰囲気の木化粧材や土壁調の外壁
 - ・高層部：下見板張りの外壁と縦の押縁をイメージした、AT葺きの外壁
- 湊川の魅力を感じ、心地よく快適に過ごすことができるデッキ空間
 - ・湊川の眺めながらくつろげる、居心地の良い屋根のかかったデッキスペース
 - ・建物内外は段差なく行き来することができ、イベント時は建具を全開放することで内外一体的に利用可能



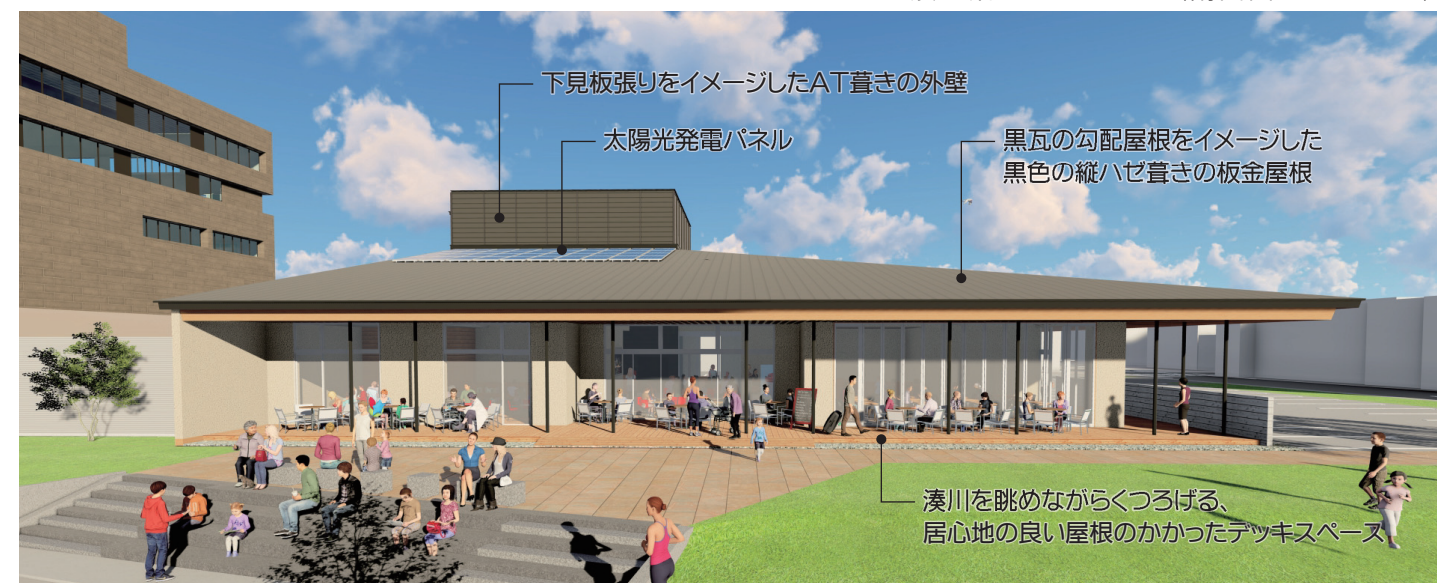
正面イメージ(南東面アイライン)



湊川沿いのイメージ(南西面アイライン)



計画道路側の立面イメージ(南面)

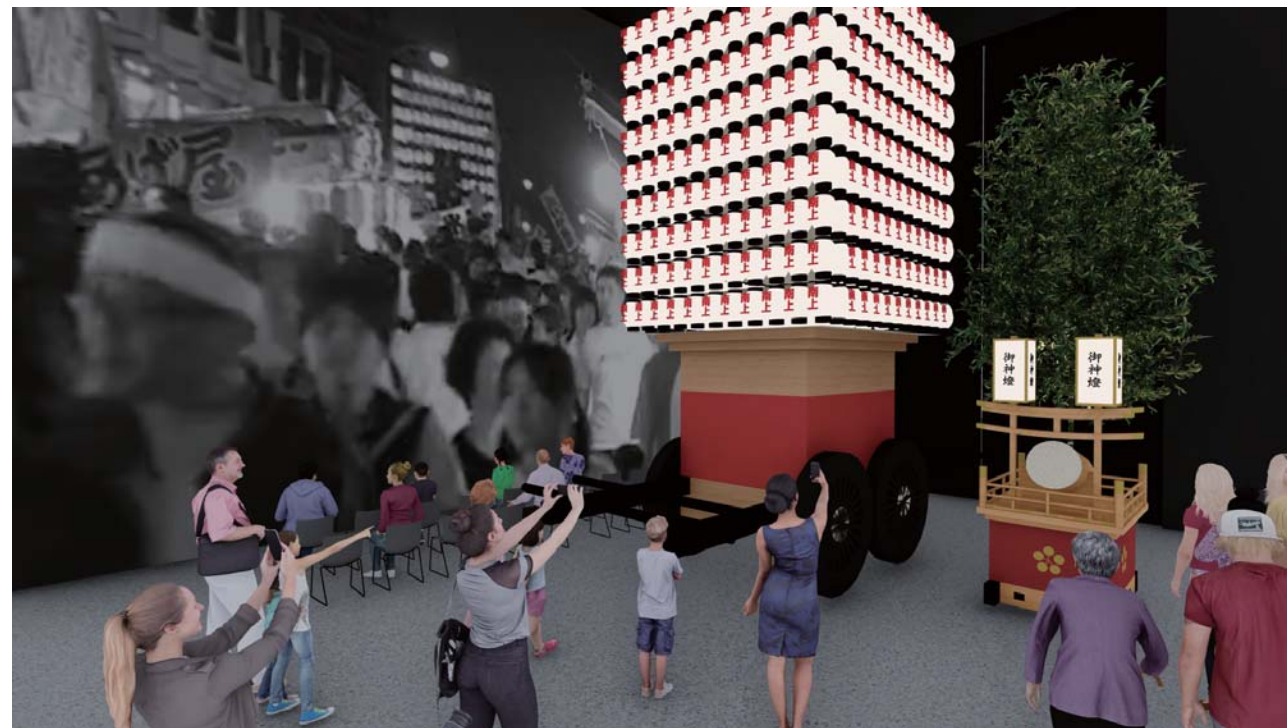


湊川沿いの立面イメージ(西面)

ひみの祭り体験・偉人コーナー

氷見の「祇園祭り」「獅子舞祭り」のダイナミックな映像・音響・光の演出「祇園祭り」「獅子舞祭り」の映像を壁面いっぱいに投影し、また解像度を上げることで、没入感を高め、祭りの臨場感を体感できる展示とします。

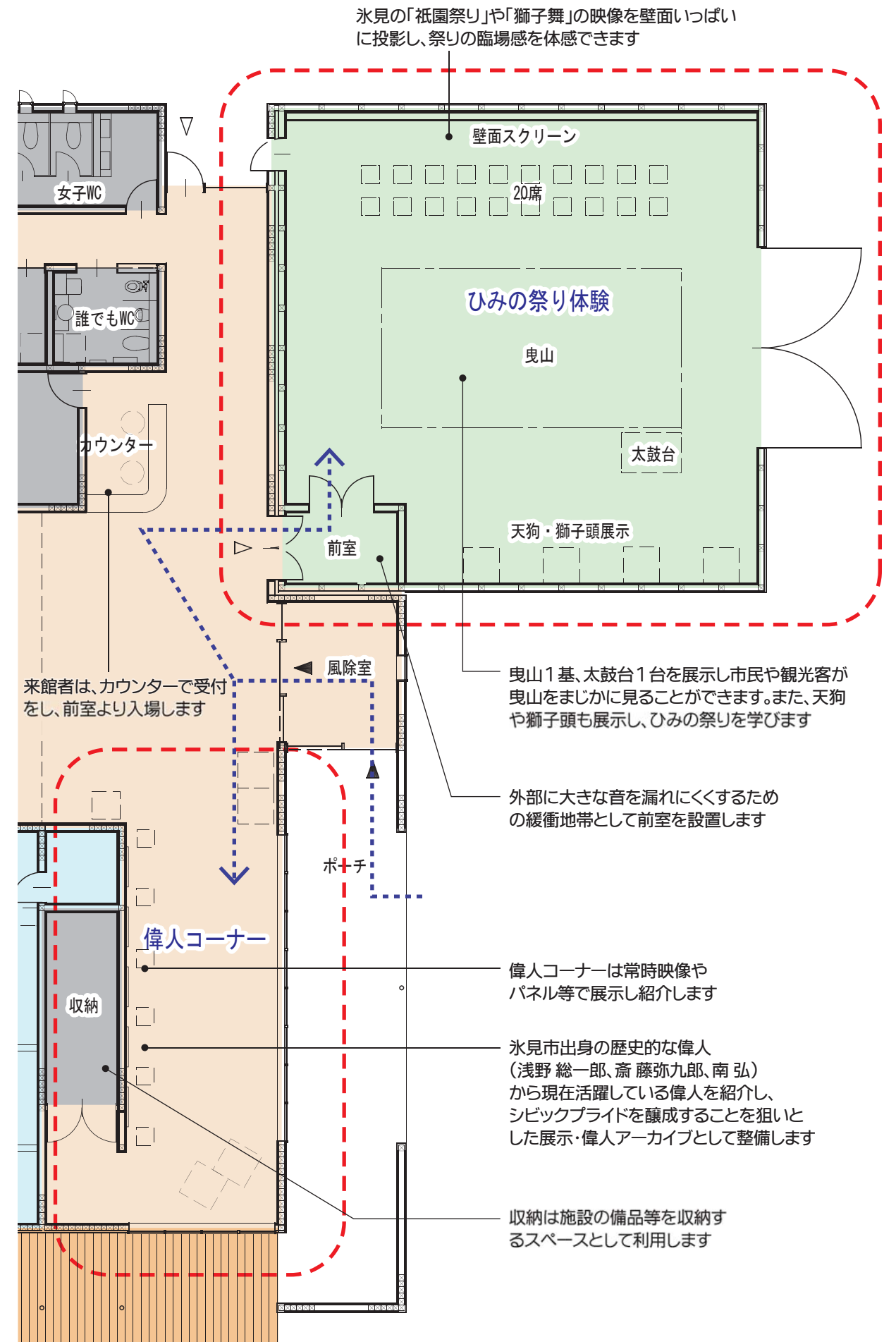
また、偉人コーナーは来館者が常時見学できるように入口付近に配置し、偉人を紹介します。



壁面スクリーンのイメージ（展示）

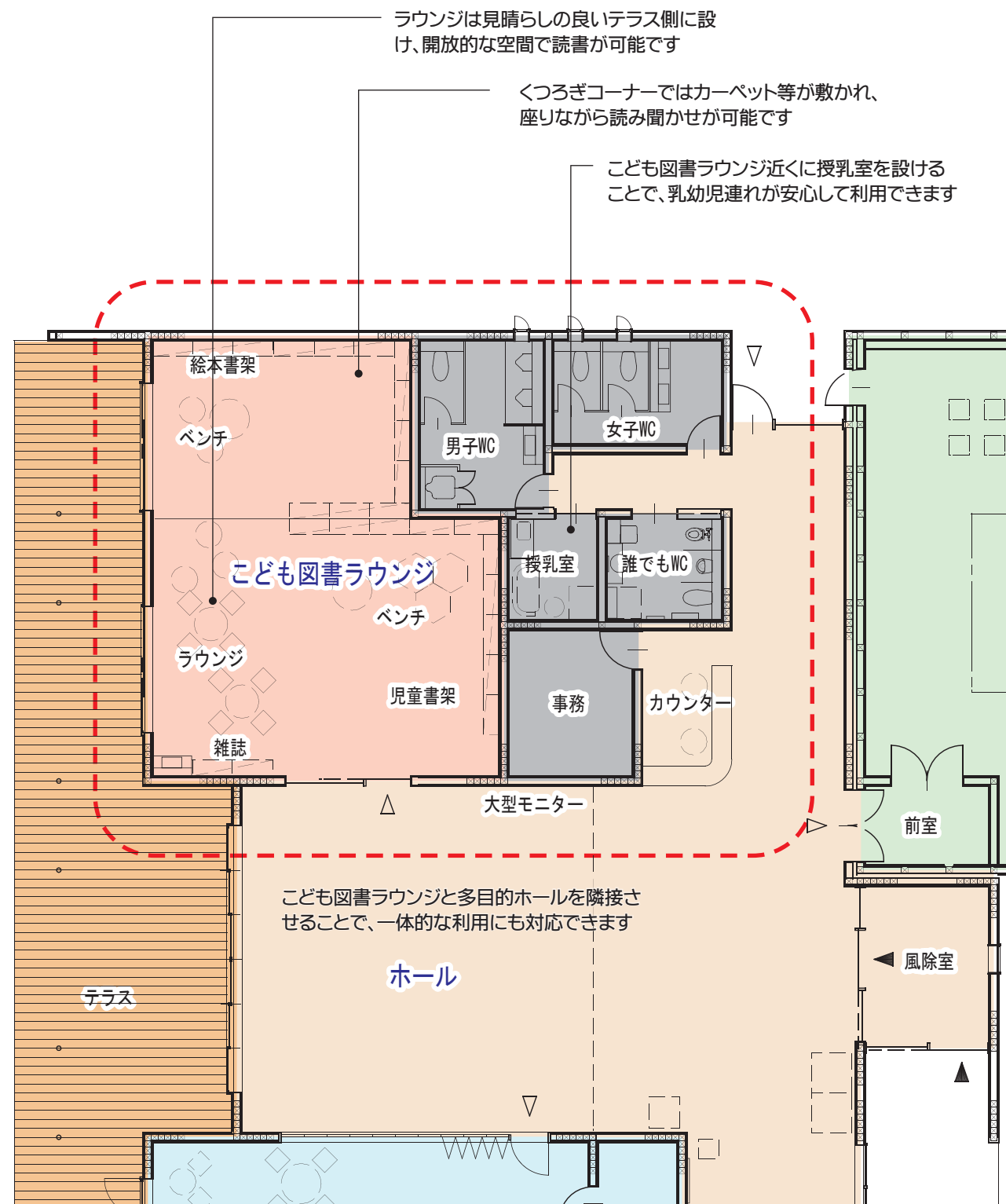


偉人コーナーのイメージ（展示）



こども図書ラウンジ・トイレ

親子で本や絵本の読み聞かせを楽しむことができ、（子育てに関する相談や）保護者同士が交流・情報交換などをしたりできる場とします。また（こどもの遊び場や）体感型インタラクティブ演出スペースとします。



こども図書ラウンジのイメージ

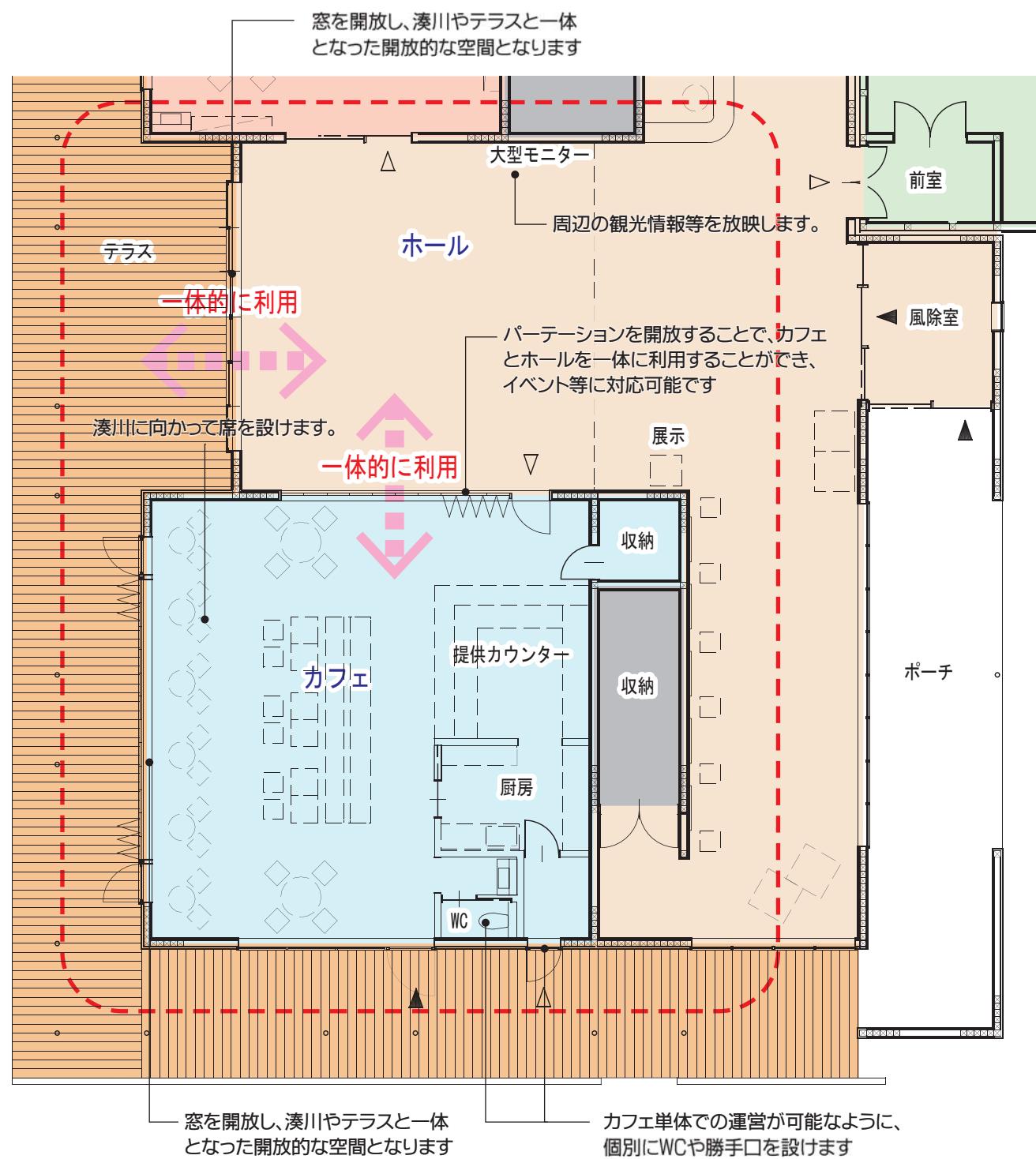


くつろぎコーナーのイメージ

カフェ・ホール

カフェは、32席程度の席数を確保し、湊川に向かって席を配置することで、湊川に向かって賑わいを出させます。カフェ単独で運営する時間帯があることを想定し、個別にWCや勝手口を設けます。ホールとの間のパーテーションを開放することで、イベント等にも対応できる広い空間となります。

ホールは、施設を中心に配置し、カフェや子ども図書ラウンジと一体的に利用が可能です。また、まちなかの情報得るインフォメーション機能も設けます。



ホールのイメージ



ホールと一体的利用するカフェのイメージ